

| 生 | を | 見 | つ | め | て |

サバイバー からの メッセージ



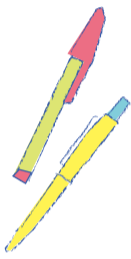
小さな布を花びらや葉に見立て作るアートフラワー。「葉脈は細いワイヤーで、花びらや葉っぱの緩やかなカーブは、コテで熱を加えて作るんですよ。そう教えてくれたのは、脳梗塞の後遺症で今も右半身にまひが残る増田泰子さん(73歳)。

急車を呼び、やっとの思いで玄関の鍵を開けたこと…。増田さんの記憶に残るのはここまで。

「その時、心房細動が起って脳に血栓が飛び、血管を詰まらせたと聞きました。もともと不整脈があり、治療を受けていましたが、まさか自分が脳梗塞になるなんて思ってもいませんでした」

数年前から息が切れ、疲れ

脳梗塞でリハビリ 力を与えてくれた アートフラワー



増田 泰子さん(高松市)

の花に仕上げるのはとても根気のいる作業ですが、「またアートフラワーができるようになるなんて、夢にも思いませんでした」とほほ笑みます。

「年のせい」だと気に留めていなかったそうです。

増田さんは8カ月の入院で投薬治療と専門的なりハビリを終え、さらに環境の整った施設でリハビリを受けるため、かがわ総合リハビリテーションセンターの成人支援施設に入所しました。

ここは障害のある人が生活能力や職業能力を身につけて社会復帰を目指す施設で、増田さんはここで一年半を過ごしました。

訓練プログラムの一つに、絵画や書道などその人の好きなことや得意なことを取り入れる「アートワーク」があります。増田さんは、スタッフの勧めで趣味だったアートフラワーを取り入れることに。

「まさかウンでしよと驚きました。左手だけで作れるわけがないですから。でもコツコツ続けていたら、できるようになるもんですね」と、並大抵でなかったであろう努力をあっけらかんと話します。

自分の言葉で感謝を伝えたい



◀花や葉をよく観察し、布を組み合わせて本物に近づけるのがアートフラワーの醍醐味。夜中に突然アイデアが浮かび、急いで書き留めることも。「花に救われた」と増田さん。



▶工芸高校時代に学んだ絹絵をアレンジした自作のポロシャツ。最近凝っているのは猫をモチーフにしたもの。実は背中にもデザインされています。